

有毒な貝について

5218 K

テーマ設定の理由

なぜ海の貝は毒のあるプランクトンを食べるのかや「げり性の貝」と「まひ性の貝」の事を全国のみなさんに知ってもらいたいからです

研究内容

(1) なぜ、海の貝は毒のあるプランクトンを食べるのか
プランクトンの毒は貝にとっては毒ではないから
また口に入ったプランクトンは海の貝がすべて食べてしまうから

(1) 貝毒とは

二枚貝類は主に海水中のプランクトンを主食としていますが一部のプランクトンの中には毒を持つものがありこれを貝がせっしゅすることによって毒化するのが貝毒です。これら毒化した貝を食べたときある一定のレベルをこえた場合に病状が現れてくるのが貝毒による「食中毒」です。

貝毒は「げり性」貝毒「まひ性」貝毒の2種類が広く知られています。

「げり性貝毒」はその名のとおり毒化した貝を食べた場合、げりや腹痛等の病状を引き起こします。現在までのところ死亡例はありません。

「まひ性貝毒」はいつぱんてきによく知られているフグの毒と同じ神経性の毒で毒化した貝を食べた場合手足のしびれやまひ 呼吸困難などの病状が現れ場合によっては死亡することがあるそうです。

(2) 貝毒の発生時期について

貝毒プランクトン出現時期は季節によってわかれており 宮城県沿岸ではまひ性貝毒原因種のアレキサンドリウムが2月から4月げり性貝毒原因種のディノフィシス属が6月から8月に現れます。このため貝毒検査はこの時期を中心に実施しています。なお宮城県ではこれらの時期以外でも隔週

(一週おきにやる。) または月1回必ず貝毒検査を実施し食中毒の防止に組んでいるそうです。

(4) 貝毒には「まひ生」の貝毒と「げり生」の
でもこの2種類のほかにも貝毒はないのか

今のところ検査をして出ている貝毒は「まひ生」の貝毒と「げり生」の貝毒だけだそうです

(5) 「沖から来るプランクトン」と「わんから来るプランクトン」と言うのはどう言うものなのか

「沖から来る」のは「げり生」の貝毒「内わんから来る」のは「まひ生」の貝毒だそうです

(6) 毒のあるプランクトンにかかりやすい貝は 何種類くらいあるのか

2枚貝（ほたてやあさり等）北海道と東北 太平洋側に分布する寒海性の2枚貝です（ほたて）（あさり）日本沿岸各地に分布し潮干がりの対象種として人気があります宮城県では春先の潮干がりの時期に貝毒が発生するそうです

この2種類ならほとんどの貝が貝毒にかかるそうです。まれにほややクリガニがかかります。

(7) いつ貝毒は発生するか

宮城県では東日本大しん災がありました。そしてしん災後「まひ生」貝毒は来年の3月まで一年おきに発生するそうです。

(8) どんな貝が貝毒の「まひ性」の貝毒と「げり性」の貝毒 にかかるのか
(4) で答えた2枚貝（ほたてやあさり等）が主にかかるそうです。

(7) 貝毒の「まひ性」の貝と「げり性」の貝毒にかかったら

2枚貝や宮城県にいる貝はこの貝毒にかかったら死んじゃうんですか
プランクトンの毒は貝にとっては毒ではないので貝は死にませんと
言うことでした。

(9) 人が貝毒にかかった貝を食べたらどのようなしょうじょうがでるのですか

「げり性」の貝毒はその名の通り腹をくだしたりします。

「まひ性」の貝毒は少量食べたくらいなら舌のはれなどの症状がでます。大量に 食べたりしたら神経等が麻ひして呼吸困難を引き起こしたりして死んでしまうことも可能性もあるそうです。なので貝毒の（2種類）「まひ性」の貝毒と「げり性」の貝毒は海の貝にとっては毒とかではないけど人にとってはちょっとした危険です。

（10）漁業者の人は貝毒がかかった事をどのようにして調べるんですか
1週間に1回専門機関で貝毒がふくんでいるかの検査をするそうです。

（11）貝毒はどのようにして消えるんですか
食べたのを消化して体外にだしてしまうため除じよに消えていくそうです。

（12）貝毒にかかりやすい貝の種類（8種類）

ホタテ貝

北海道と東北太平洋側に分布する寒海性の二枚貝で宮城県の唐桑町から牡鹿半島黒崎に至る海岸で盛んに養しょくされています。宮城県のホタテガイは成長が早く生鮮貝として高いことから近年生産が増えてきます。

ムラサキイガイ

シューリ貝 ムール貝とも呼ばれます。もともとはヨーロッパ原産で日本には昭和の初めころ海運の発達により移入されたそうです。食料となりますが貝毒をふんせきしやすいので注意がひつようだそうです。

今後の課題

海の貝は年々増えているのですか。それとも減っているのか。

答え 増えてもいるし、減ってもいる。

その理由

一回震災で、だめ（海の貝がない状態）になった。

でも、生活をそれでやっていかなければならない。

でもそれで今は、増え続けていかなければならないから漁業協同組合さんが漁業者のみなさんと力を合わせて復興にむけてがんばっています。

3 感想

最後の研究内容でいったようにさまざまな貝毒にかかりやすい貝がたくさんあります。そしてこの「有毒な貝」についておどろいたことやびっくりしたことは3つあります。

まず一つめは「いつ貝毒は発生するか」です。震災後は「まひ性」貝毒は1年中発生するなんておどろきました。そして本当に「まひ性」貝毒は危険だしあぶない貝毒だとこの「貝毒」(有毒)の件をしらべてはじめてわかりました。

二つめは 貝毒はどのようにして消えるかです。それは食べ物を消化して体外にでてしまうためだいじょうぶということでした。すごくびっくりしました。



これを書いたときは「これはどうなるのか」とびっくりしましたが漁業協同組合さんからの資料をいただいたときにこの件が書いてあったのですごく安心しました。そして体外でるということですが私は感染障だと思ってしまうので安しんしました。



三つめは「ひとが貝毒にかかった貝をたべたらどのような病状が出るのか」ということです。(8)でいったとおりです。すごくこれもびっくりしました。

そして、、、

(12)で言った「貝毒にかかりやすい貝」でホタテガイやカキで私は全然貝毒とかは、「ないかなあ〜」とそう思っていました。でも、「貝毒にかかりやすい貝」を調べて漁業協同組合さんに資料をいただいて、「貝毒がある」と書いてあったので今度は「あ〜そうなんだあ〜」と思いました。カキもそのとおりです。

まとめ

この「有毒な貝について」をしらべて、この資料ではのってはいないけど、「貝毒のメカニズム」があります。光や水温などかん境条件の変化によって、有毒プランクトンが増食するかのうせいがあります。

がんばろう気仙沼